

職業実践専門課程の基本情報について

| | | | | | |
|---------------|--|-------------------|--|--------------------|----------------|
| 学 校 名 | 設置認可年月日 | 校 長 名 | 所 在 地 | | |
| I G L 医療専門学校 | 平成13年3月30日 | 平越 幸男 | 〒731-3164 広島市安佐南区伴東1丁目12-18 (電話) 082-849-5001 | | |
| 設 置 者 名 | 設立認可年月日 | 代 表 者 名 | 所 在 地 | | |
| 学校法人 I G L 学園 | 昭和49年3月27日 | 永見 憲吾 | 〒731-0154 広島市安佐南区上安六丁目31番1号 (電話) 082-830-3399 | | |
| 目 的 | 地域歯科保健医療の充実を図るために予防・処置や保健指導の必要性が高まり、在宅歯科や歯科の介護サービスへの対応が進展している。これらのニーズに対応し、歯科衛生士業務の充実を図り、業務の充実に対応した人材を育成する。 | | | | |
| 課 程 名 | 学 科 名 | 修業年限 (昼、夜別) | 全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数 | 専門士の付与 | 高度専門士の付与 |
| 医療専門課程 | 口腔保健学科 | 3年(昼) | 2534時間 103単位 | 平成20年文部科学大臣告示第11号 | 無 |
| 教 育 課 程 | 講義 | 演習 | 実験 | 実習 | 実技 |
| | 1154単位時間 (又は単位) | 124単位時間 (又は単位) | 単位時間 (又は単位) | 1256単位時間 (又は単位) | 単位時間 (又は単位) |
| 生徒総定員 | 生徒実員 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 150人 | 97人 | 5人 | 53人 | 58人 | |
| 学期制度 | ■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 | 成績評価 | ■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 定期試験の成績で評価。100点満点で評価し、60点以上をもって単位が認定される。成績評価の表示は、優(80点以上)・良(以上70点以上80点未満)・可(60点以上70点未満)・不可(60点未満) | | |
| 長期休み | ■学年始め：4月1日～4月7日 ■夏 季：8月1日～8月31日 ■冬 季：12月24日～1月6日 ■学 年 末：2月26日～3月31日 | 卒業・進級条件 | 進級の基準 原則として当該年次において開設している全科目についての単位が認定されていること。学納金が納入期日までに納入されていること。 卒業の認定 3年次において進級の基準を満たし、かつ卒業に必要な全科目の単位を修得した者。 | | |
| 生徒指導 | ■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応 長期欠席者や欠席の多い学生は、保護者と密な連携を図り、学業への意欲を取り戻すよう試みた。 | 課外活動 | ■課外活動の種類 幼児歯科検診の補助活動 ■サークル活動 (有・無) | | |
| 主な就職先 | ■主な就職先、業界 歯科医院 ■就職率 100% | 主な資格・検定 | 歯科衛生士国家試験受験資格 | | |

| | |
|----------------|--|
| <p>中途退学の現状</p> | <p>■中途退学者6名 ■中退率7.9%</p> <p>平成23年4月1日在学者76名（平成23年4月入学者を含む） 平成24年3月31日在学者70名（平成23年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 成績不振、経済事情</p> <p>■中退防止のための取組 面談、勉強会を行う。</p> |
| <p>ホームページ</p> | <p>URL: http://www.igl.ac.jp/iryo/</p> |

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成25年12月11日現在

| 名 前 | 所 属 |
|--------|-------------------------------|
| 天野 秀昭 | 広島大学歯学部 教授 |
| 浮田 瑞穂 | 広島県歯科衛生士会 会長 |
| 森下 真行 | もりした歯科クリニック 院長 |
| 上間 京子 | オフィス・ハーモニー 代表 |
| 丸木 直也 | 公益社団法人 広島県鍼灸師会 副会長 |
| 花重 博明 | 株式会社エーデルワイス IGL 鍼灸マッサージ治療院 院長 |
| 山根 弘 | 山根鍼灸院 院長 |
| 加藤 弘幸 | 社団法人 広島県柔道接骨師会 総務部長 |
| 西田 和明 | 有限会社 Sesame オリエンタル鍼灸整骨院 部長 |
| 平越 幸男 | IGL 医療専門学校 校長 |
| 下田 洋夫 | IGL 医療専門学校 副校長 |
| 武田 伸一 | IGL 医療専門学校 教務部長 |
| 今井 康夫 | IGL 医療専門学校 口腔保健学科 学科長 |
| 柳楽 美作男 | IGL 医療専門学校 柔整学科 学科長 |
| 尾野 龍一 | IGL 医療専門学校 鍼灸学科 学科長 |

(開催日時)

第1回 平成25年11月24日(日) 9:30~11:00

第2回 平成26年2月9日(日) 9:30~11:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
|---------|--|---|
| 臨地・臨床実習 | 歯科医療の現場で歯科衛生士としての実践的な仕事を体験・理解し、技術的能力とコミュニケーション能力を身に付ける。また、老人施設、保育園などでの実習を通して歯科衛生士のさまざまな働き方を学ぶ。 | 広島大学病院, あおき歯科クリニック, 社会福祉法人IGL学園福祉会 老人保健施設ベルローゼ, 社会福祉法人IGL学園福祉会 広島サムエル保育園 他36件 |

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

教員は歯科衛生士の実務に関する研修と歯科衛生士養成学校の教員としての研修を、原則として年間1回以上ずつ受ける。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成25年12月11日現在

| 名 前 | 所 属 |
|-------|-------------------------------|
| 森下 真行 | もりした歯科クリニック 院長 |
| 上間 京子 | オフィス・ハーモニー 代表 |
| 花重 博明 | 株式会社エーデルワイス IGL 鍼灸マッサージ治療院 院長 |
| 山根 弘 | 山根鍼灸院 院長 |
| 西田 和明 | 有限会社 Sesame オリエンタル鍼灸整骨院 部長 |
| 上高原 悟 | 広陵高等学校 校長 |
| 國部 智礼 | IGL 医療専門学校同窓会 副会長 |

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.igl.ac.jp/iryo/>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.igl.ac.jp/iryo/>

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-------|---|----------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 心理学 | 「心理学（概論）」を学ぶことで、人間の心に関心を持ち、この講義を契機に更に深め、臨床場面で役立てる。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 英語 | 歯科医院で、日本語に慣れない外国人に対応することが多くなっている。歯科医院での英会話を軸として日常の歯科英会話を身に付ける。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 保健体育 | ヨガの基礎的な呼吸法、アーサナ（ポーズ）を用いた体の各部位に効果的なエクササイズプログラムを実施する。心身ともに健康な生活を送るための基礎知識を身につけ、健康面での自己管理の方法を学習する。 | 1後 2前 | 32 | 2 | | ○ | |
| ○ | | | 情報科学 | コンピュータを使って、情報の収集、編集からまとめるまでの基本的技術を学習する。文書作成ソフト Word 及びプレゼンテーション作成ソフト PowerPoint を適切に操作、習得する。 | 1後 2前 | 32 | 2 | | ○ | |
| ○ | | | 生物学 | 生物学、解剖学などの専門基礎分野の基礎となるような生物学（生物体の構成と機能に関する分野）の基礎的事項を習得する。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 化学 | 基礎化学の学習を通し化学物質に対する基本的理解を深めさせ、正しい物質観・科学的自然観を育成する。 | 1前 | 16 | 1 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | コミュニケーション学 | 歯科分野では患者様、利用者様といった被援助者と毎日接し、多くのメッセージをやり取りしている。即戦力として求められる歯科スタッフとしての総合的なコミュニケーション力の基本を学習する。 | 1前 | 30 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 解剖学 | 人体を骨、筋、神経、内臓等に分類し、全身のこれらの構造について概略を学ぶ。頭頸部については、より細部について学ぶ。人体、特に頭頸部の諸構造の立体的位置関係を理解することにより、それらの機能や病気を知り、診療を行うための基礎となる知識を身につける。 | 1前 | 40 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 口腔解剖学 | 歯科医学に必要な歯の形態（総論、各論）を学ぶ。また咀嚼のメカニズムも学習する。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 口腔解剖学実習 | 歯の形態を理解し、口腔保健医療従事者として不可欠な解剖学的知識を修得するために歯の彫刻を行う。 | 2前 | 32 | 1 | | | ○ |
| ○ | | | 組織学・口腔組織学 | 人体を構成する細胞並びに組織構造の基本を学ぶ総論と、口腔組織を学ぶ各論からなる。 | 1後 | 20 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 生理学・口腔生理学 | 生命を保ち子孫を残すために機能しているカラダのしくみを、細胞レベルから器官系のレベルまで、さまざまな角度から学ぶ。前半は環境の変化に適応しながら、栄養を取り込みエネルギーに替えて新陳代謝と生殖行動を行う生命の基本的機構を学び、後半は口腔周辺での生理現象を取り上げて、解剖学の知識と照らし合わせながら、諸器官の機能やその連係を理解する。 | 1前 | 40 | 2 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-------------|---|----------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 病理学・口腔病理学 | 病理学は、病気の原因, 成り立ち, 経過, 結果などを理解する。全身の臓器組織に共通してみられる病変の成り立ちや特徴、口腔領域に生じる病変の病理学的特徴についてより詳細に学ぶ。さらに、代表的な病変を顕微鏡で観察し、スケッチする。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 微生物学・口腔微生物学 | 医学微生物・口腔微生物学の基礎・免疫学の基礎を理解する。 | 1後 | 40 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 薬理学・歯科薬理学 | 薬がどのようにして作用するのか(薬理作用)、副作用はどのようにしておきるのかなど、薬理学の基礎から学ぶ。また、薬を安全に正しく取り扱うための基礎知識を習得する。特に歯科領域で汎用される薬物については、臨床使用・応用例を交えて理解する。 | 1後 | 32 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 生化学・口腔生化学 | 生体内分子の構造や性質を分子レベルで学習し、合成・分解の筋道すなわち代謝経路を理解し、エネルギーの流れを把握し、生命維持のために種々の調節機能が用意されていることを正しく認識する。 | 1後 2前 | 36 | 2 | ○ | | |
| ○ | | | 栄養学 | 栄養素の種類・生理機能・代謝について理解し、エネルギー代謝や栄養素の要求量・欠乏症について学習する。 | 1後 | 20 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 理工学・歯科理工学 | 歯科衛生士として必要な歯科材料や機器についての基礎的な知識の習得をもとにして、歯科臨床における各歯科材料の取扱い方や管理方法、各歯科用機器の取扱い方及び生体に対する歯科材料の安全性等について学習する。 | 1前 | 32 | 2 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|------------|--|---------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 衛生学・公衆衛生学 | 健康の概念や予防の考え方を解説し、食生活、運動、休養、喫煙等の生活習慣の改善や生涯を通じての保健事業の全体的な構造の理解のもとに、歯科衛生士として国民の健康増進に貢献するために必要な知識と技術について学習する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 口腔衛生学A | 口腔清掃、齲蝕の予防、歯周疾患の予防、口臭の予防などについて歯科衛生士として歯科保健・医療に従事する上で必要な知識を習得する。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 口腔衛生学B | 歯科衛生士として歯科医療に貢献するため、その基礎知識として不正咬合の予防、歯科疾患の疫学や歯科保健統計を学び、地域口腔保健活動について理解する。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科衛生統計 | 疫学調査と統計学について基本的事項を習得する。特に歯科における指標（口腔清掃指標、歯周疾患、う蝕の指標など）とそれらをもとにした実態分析（平均値の差、相関関係）の方法を習得する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 衛生行政・社会福祉学 | 歯科衛生士として歯科医療に貢献するため、衛生行政の仕組みや保健医療、さらに福祉関係の法規についても精通し、また社会福祉や社会保険制度の諸対策について理解する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科衛生士概論 | 歯科衛生士として保健・医療・福祉に関わることの意義をみつけ、また専門職として必要なことは何か、何を学ぶのか、また、対象とする人ニーズの把握の仕方、さらに歯科衛生業務の考え方や行動の仕方を理解する。また、倫理的な視点を持ち、かつ科学的な裏づけをもって仕事をするこの意味を考える。 | 1前 | 32 | 2 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-----------------|---|---------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 歯科医学概論 ・臨床概論 | 歯科にかかわる人びとの業務内容、現状とその問題点、歴史及び将来の展望などを学び、歯科の世界を包括的に理解する。 | 1前 | 20 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 審美歯科 | 顎口腔における形態美・色彩美・機能美の調和を図り、人々の幸福に貢献する歯科医療を学習する。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科保存学A | 口腔・顎顔面領域の診療審査方法を理解し、治療の補助、予防の実践を行うために保存修復に関する基本的な知識・技能を身につける。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科保存学B | 歯内療法学に関する基礎知識を習得する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科保存学C | 歯周病学に関する知識を習得する。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科補綴学A | 歯科補綴学（有床義歯学）の基礎知識を習得する。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科補綴学B | 歯科補綴学(冠・橋義歯・インプラント)について理解する。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 顎・口腔外科学 | 口腔外科的疾患について理解する。口腔外科小手術の概要について理解する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-----------|--|---------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 小児歯科学 | 小児歯科学の意義・目的を踏まえ、小児の成長発達並びに小児期における口腔領域の疾病の予防法や治療内容に関する基本的知識を習得する。歯科衛生士として小児歯科医療に従事するために必要な知識や技能についても学習する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科矯正学 | 将来歯科衛生士として矯正歯科治療にどのように携わるか理解するために、歯科矯正学の基本的な知識を習得する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科放射線学 | 歯科で行われる画像検査の手法、基本的な放射線の知識を身につけることを目的とする。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 麻酔学・歯科麻酔学 | 麻酔学・歯科麻酔学の授業を通して、医療従事者として必要な患者の全身状態評価、全身管理、侵襲制御、心肺蘇生についての基礎的知識を身につける。 | 2前 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 臨床検査学 | 歯科医療に携わる一員である歯科衛生士に必要な、口腔に発生する疾患の予防・治療あるいはそれに影響を与える全身疾患や感染症などに関する検査の基礎的知識（検査の意義、方法、結果の解釈など）を習得する。 | 2後 | 18 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 高齢者歯科学 | 日本がこれから直面する超高齢社会に対して、高齢者のADLおよびQOL向上に寄与する口腔保健の基礎的知識を習得し、将来的に高齢者歯科に貢献する。 | 2前 | 16 | 1 | ○ | | |
| ○ | | | 障害者歯科学 | 障害や障害者歯科についての必要な基礎的、臨床的知識について習得する。 | 2後 | 16 | 1 | ○ | | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-----------------|---|-------------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 歯科予防処置 | 歯科衛生士として必要な、歯・口腔の健康に関する基礎知識を修得し健康像を十分に理解する。健康な歯・口腔を維持するために必要なプロフェッショナルケアの知識・技術を理解し、基礎実習・相互実習へつなげる。 | 1 2 3 | 90 | 5 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科予防処置 実技実習Ⅰ | 実習における器具の基本的技法を習熟し、ファントムによる予防的歯石除去法の基本的施術を学習する。 | 1 通 | 72 | 2 | | | ○ |
| ○ | | | 歯科予防処置 実技実習Ⅱ | 歯科衛生士が行う歯科予防処置方法のひとつである歯石除去の操作方法をファントムを使用して行う。鎌型、鋭匙型スケーラー操作、ミラー操作を中心に行う。また、プロービング、歯面研磨の操作法を習得し相互実習を行なう。 | 2 前 | 36 | 1 | | | ○ |
| ○ | | | 歯科保健指導 | 歯科衛生士として個々の患者様に適切な保健指導を行うために、必要な専門的基礎知識及び技術を習得する。 | 1 2 3 | 90 | 5 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科保健指導 実技実習Ⅰ | 歯科衛生士として必要な保健指導の基礎知識及び基礎技術を習得する。 | 1 後 | 36 | 1 | | | ○ |
| ○ | | | 歯科保健指導 実技実習Ⅱ | 1年次に学習した歯科保健指導の内容を踏まえ、実技実習を行う。保健指導に必要なブラッシング方法や補助用具の使用法に重点を置き、患者へのアプローチ方法を学習する。また、歯科衛生士に必要な態度、マナーを学び、技術、知識を充実させる。 | 2 前 | 36 | 1 | | | ○ |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-----------------|--|------------------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| ○ | | | 歯科診療補助 | 円滑な診療を行うための基本的な知識、チーム医療における歯科衛生士の役割を学ぶとともに診療器具や歯科材料の取り扱いなどを理解し、臨床における様々なケースに対応できる能力を養う。 | 1 2 3 | 90 | 5 | ○ | | |
| ○ | | | 歯科診療補助 実技実習Ⅰ | 歯科診療で使用する材料の操作手順を実際に取り扱うことにより、その性質等を理解する。 | 1 後 | 36 | 1 | | | ○ |
| ○ | | | 歯科診療補助 実技実習Ⅱ | 1年生後期に引き続き、診療補助に必要な基礎知識、技術を充実させ、様々な治療法に対応できるよう学習する。また、歯科衛生士に必要な態度、マナーを身に付ける。 | 2 通 | 108 | 3 | | | ○ |
| ○ | | | 臨地・臨床実習 | 歯科医療の現場で歯科衛生士としての実践的な仕事を体験・理解し、技術的能力とコミュニケーション能力を身に付ける。また、老人施設、保育園などでの実習を通して歯科衛生士のさまざまな働き方を学習する。 | 2 後 3 通 | 900 | 20 | | | ○ |
| | ○ | | 看護学 | 歯科衛生士として、患者、対象の健康状態、心理状態を把握し、患者・対象に応じた看護方法・指導を学び、また、看護ケアの基本的役割、ライフサイクルの健康、医療事故における法的責任等を学習する。 | 2 後 | 16 | 1 | ○ | | |
| | ○ | | 総合演習 | 1年次、2年次で学んだ内容を総合的に復習し、科目ごとに細分化された授業とは違った視点から学習する。国家試験に向けて、学習済みの科目の内容を復習する。 | 2 後 | 44 | 2 | | ○ | |

授業科目等の概要

| (医療専門課程口腔保健学科) 平成25年度 | | | | | | | | | | |
|-----------------------|------|------|-------|---|-----------------|------|-----|------|----|----------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 |
| | ○ | | 卒業研究 | 学生自身の勉学や実習の中から発生した疑問に基づき、班別に研究テーマを決める。必要な情報を収集し、実験方法を立案し、実行し、その結果について再度検討する。最終的に得られた結果について考察し発表する。研究とプレゼンテーションの技法を習得する。 | 3通 | 16 | 1 | | ○ | |
| | ○ | | 介護学 | 介護の主義・倫理について学ぶ。基本生活支援技術（介護技術）を理解する。 | 2後 | 16 | 1 | ○ | | |
| | ○ | | 東洋医学 | 東洋医学とはなにか。西洋医学との考え方の違いを理解する。これにより人間（患者）を診る複数の見方があるということを知る。また、簡単な按摩・指圧法などの実技を行ない、他者の体に対するアプローチの感覚も学習する。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | |
| | ○ | | マナー | 医療機関で働くために、なぜマナーが必要なのかを考える。授業は演習形式の参加型とし、マナーの基本理念のみでなく具体的なスキルを身に付ける。 | 2後 | 16 | 1 | ○ | | |
| | ○ | | 手話 | ろう者に対する理解とお互いの意志の疎通が図られるように学習する。 | 1後 | 16 | 1 | ○ | | |
| 合計 | | | 56科目 | | 2534単位時間（103単位） | | | | | |